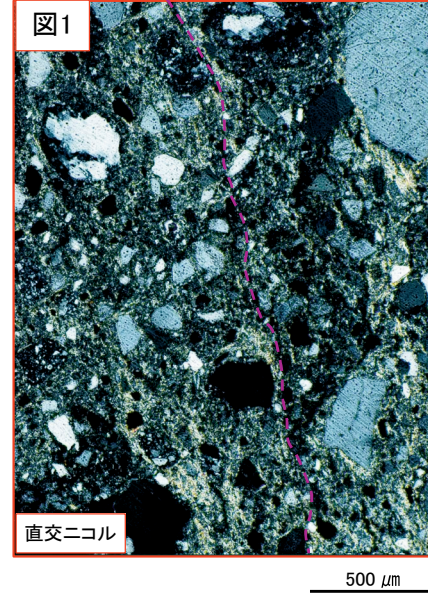
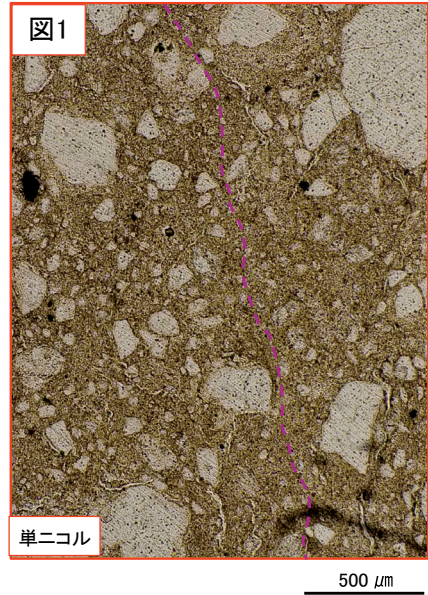
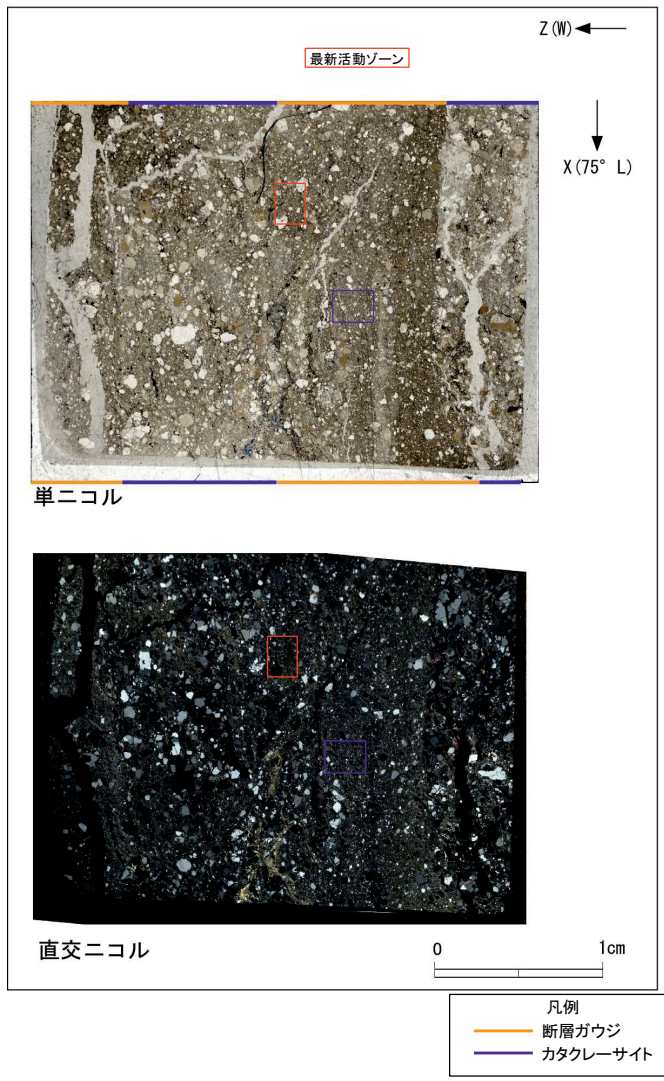
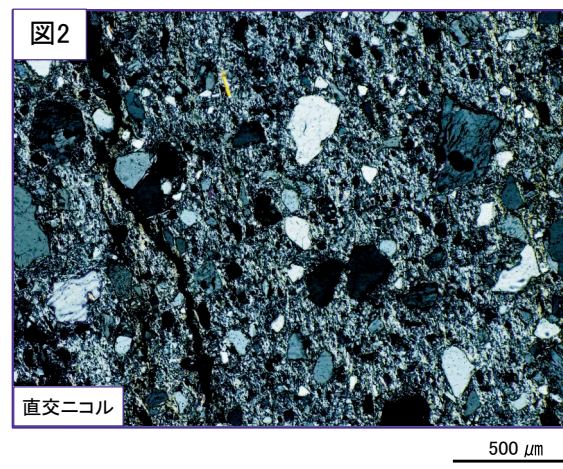
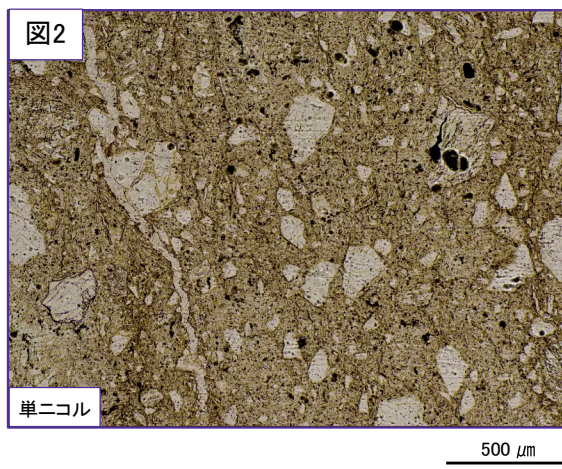


K断層 破碎部性状 H24-H-6 深度9.92~14.69m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/3))

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)

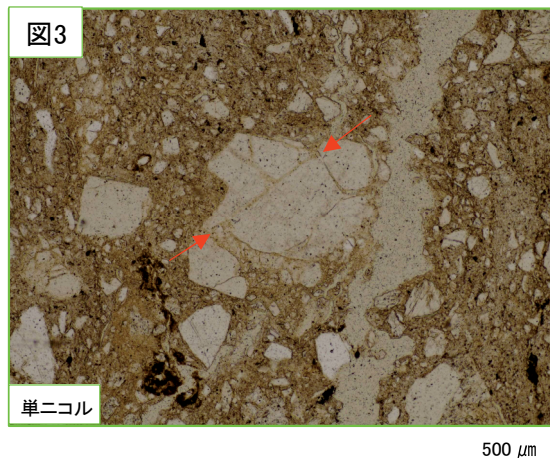
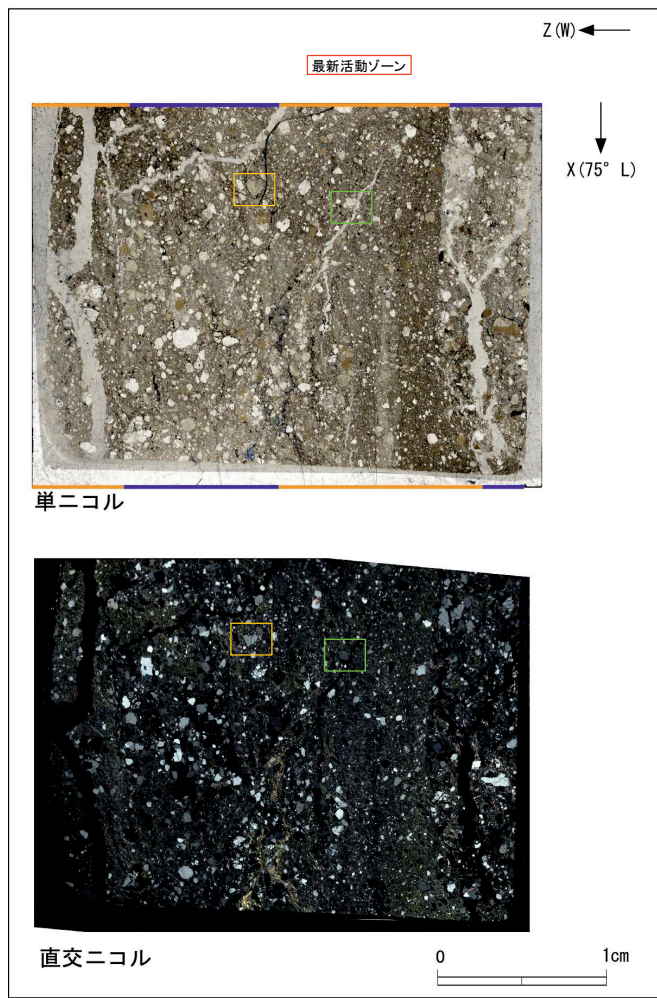


破線は帯状で直線的な粘土状部の範囲を示す

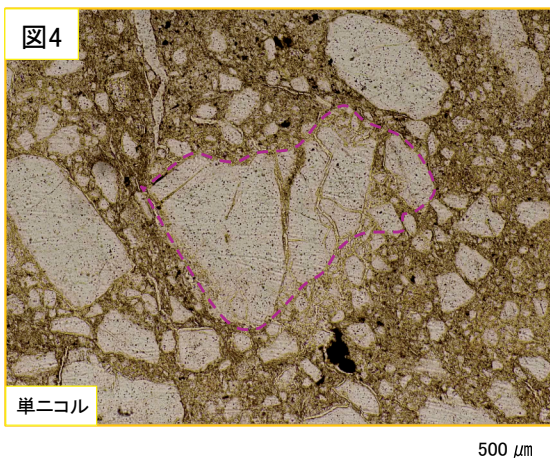
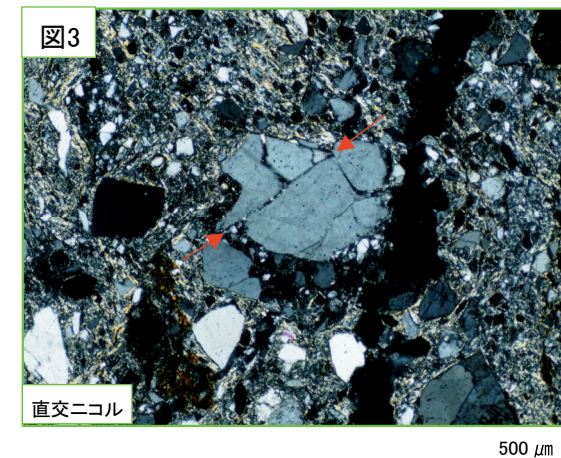


K断層 破碎部性状 H24-H-6 深度9.92~14.69m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(3/3))

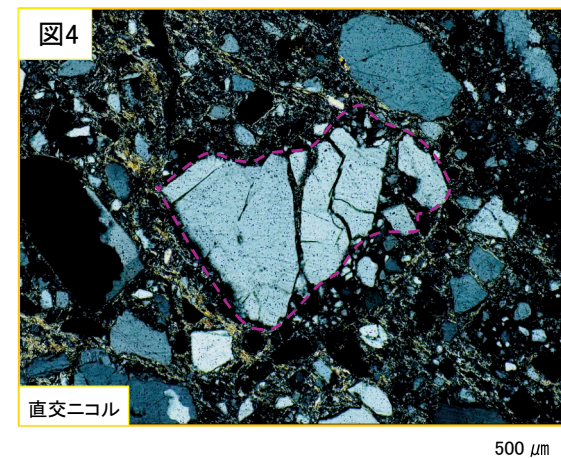
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図3)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図4)



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す



K断層 破碎部性状 H24-H-6 深度9.92～14.69m(断層岩区分の総合評価)

(肉眼観察結果 深度10.50m)

- ・ 肉眼観察では、粘土状部は、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- ・ 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- ・ 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - ・ 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - ・ 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - ・ 岩片は少ない。
- ・ 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
 - ・ 角ばった岩片が多い。
 - ・ 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
 - ・ ジグソー状の角礫群が認められる。

最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破碎部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- ・ 肉眼観察で確認された粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- ・ 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
有	1.0	有

* :断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。

断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

H24-F-5
11.02~11.63m

K断層 破碎部性状 H24-F-5 深度11.02～11.63m(肉眼観察による断層岩区分)

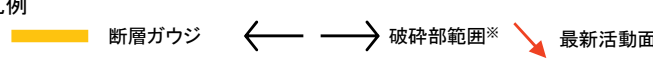
- ・深度11.02～11.05mの「粘土混じり岩片状破碎部 (Hj)」と記載の箇所については、やや硬質で、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度11.05～11.07mの「粘土状破碎部 (Hc-1)」と記載の箇所については、やや軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。
- ・深度11.07～11.10mの「礫質粘土状破碎部 (Hb)」と記載の箇所については、やや軟質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は認められないが、細粒部の連続性に乏しい。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。含まれる細粒部は、変質したカタクレーサイト中の粘土脈である。
- ・深度11.10～11.63mの「粘土混じり岩片状破碎部 (Hj)」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

破碎部性状の記事

- 11.02～11.63m : 破碎部
- 11.02～11.05m : 粘土混じり岩片状破碎部 (Hj)
 上端30°で直線的で、下端55°で直線的に連続。径5～10mmの花崗斑岩軟化岩片と岩片間の粘土～粘土脈からなる。にぶい褐色を呈する。幅1～4cm。
- 11.05～11.07m : 粘土状破碎部 (Hc-1)
 上下端とも55°直線的に連続。径2～5mmの花崗斑岩半クサリ礫を約10%含む。灰褐色を呈する。幅5～10mm。
- 11.07～11.10m : 礫質粘土状破碎部 (Hb)
 上端55°，下端47°で直線的であるが不連続。径5～10mmの花崗斑岩岩片を約30%含む。灰白～にぶい黄橙色を呈する。幅2.5～3cm。
- 11.10～11.63m : 粘土混じり岩片状破碎部 (Hj)
 上端47°，下端25°で直線的に連続。径3～5mmの花崗斑岩岩片主体で、岩片間を細かい白色粘土脈が網状に分布する。にぶい黄橙色を呈する。

コア写真

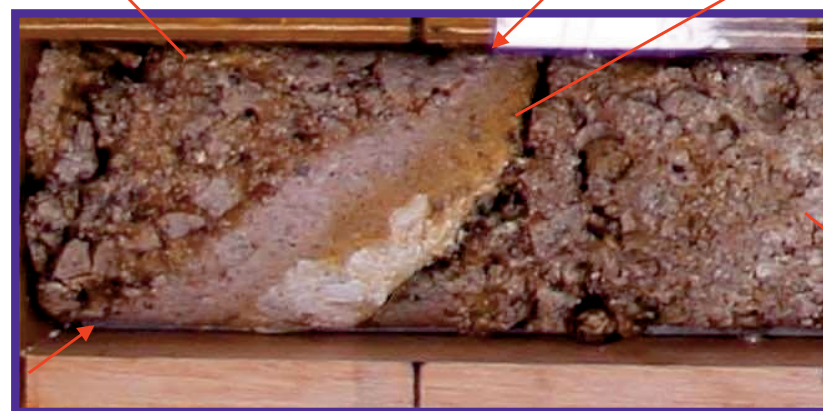


凡例

 ※: 写真上は白色で記載

細粒部が網目状に分布する

深度11.05～11.07mの連続性及び直線性が良い粘土

連続性に乏しい粘土



青枠部拡大

0 5 cm

H24-H-13
8.89 ~ 9.80m

K断層 破碎部性状 H24-H-13 深度8.89~9.80m(肉眼観察による断層岩区分)

- ・深度8.89~8.92mの「礫混じり粘土状破碎部(Hc-2)」と記載の箇所については、やや軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。
- ・深度8.92~9.80mの「粘土混じり岩片状破碎部(Hj)」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

破碎部性状の記事

●8.89~9.80m: 破碎部(K断層)

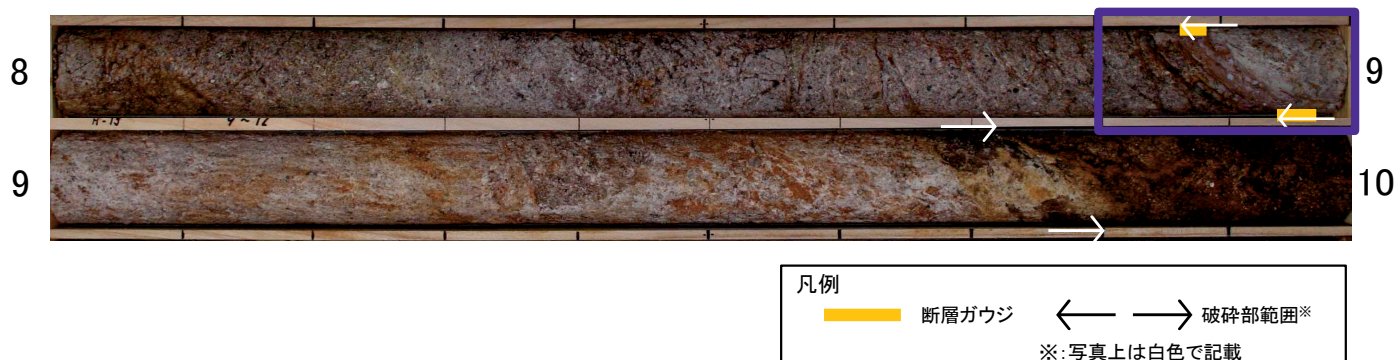
8.89~8.92m: 礫混じり粘土状破碎部(Hc-2)

上端55°, 下端55° で、上端はやや波打って、下端はほぼ直線的にシャープに連続。径1~5mm石英粒, Φ 5~10mm亜角礫~長さ10~20mm, 幅2~3mmの扁平礫を含む。礫は粘土化することが多い。また、上端に幅0.5~1mmのやや締ったにぶい橙色の粘土脈が分布する。にぶい赤褐色を呈する。幅20~25mm。

8.92~9.80m: 粘土混じり岩片状破碎部(Hj)

上端55°, 下端60° で、上端はほぼ直線的でシャープに、下端はやや不明瞭に連続。径5~80mmの粘土化~砂状化した花崗斑岩岩片間を縫うように幅1~3mmの白色の軟弱粘土脈が網状に分布する。にぶい黄橙色を呈する。

コア写真



深度8.89~8.92mの連続性及び直線性が良い礫混じり粘土

細粒部が網目状に分布する



青枠部拡大

0 5 cm